

安保・戦争国会粉碎へ!

2015年6月11日
No.301

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

沖大自治会と香港学生との交流会が大成功

5月沖縄闘争と自治会選挙の勝利に対する沖大当局の新たな処分策動、6・15安保国会粉碎の大決戦に向かう闘いの一環として、6月8日、沖大学生自治会と香港大学の学生との交流会が行われ、大成功をかちとりました。

今回の交流会は、香港大学の学生が沖縄戦を学ぶために5月5日から9日まで企画していたツアーの一環として準備され、実現したものです。

交流会ではまず、沖大学生自治会の赤嶺委員長が、自治会の自己紹介や辺野古新基地建設・戦争攻撃との闘いの高揚を報告。続けて、「軍隊は住民を守らない」という沖縄戦についての簡単な学習提起を行いました。

香港大学の学生は、みんな熱心にメモを取りながら聞き入り、次々と質問。「基地を本土に持っていったらどうい影響がありますか?」「どのような基地被害がありますか?」「今の日本政府はアメリカとの関係で進めているが、その現実をどうやったら変えられると思いませんか?」。

赤嶺委員長は「基地は本土に持っていくのではなく、なくしたい。こういう思いは誰にもさせたくない」「学生自治会としてキャンパスから学生が団結して闘うことに変える力がある」などと答え、活発な議論が交わされました。

香港大学の学生からは、昨年9月から1ヶ月にわたって闘われた「雨傘革命」と、その後の状況について、報告されました。

「雨傘革命」は、中国政府が香港に履行を約束していた行政長官の普通選挙について、中国に批判的な人物の立候補ができない制度にしようとしたことに対して、1万3千人の大学生が授業ストライキに立ち、労働組合を動かし、2カ月以上にわたる中心街の占拠に発展した闘いです。

香港の学生からは、雨傘革命について、①多くの大学生・高校生や民衆をストライキや政治闘争に引き入れ、政府と直接交渉するまで学生の力が高まったこと、②にもかかわらず最後は強制排除され、直接には中国政府や香港政府を動かさなかったことの総括をめぐって、絶



対反対か改善かの分岐が起きていること、③学生組織をめぐっても大学・学生を二分する激論が起きていることなどが報告されました。

最後に、全学連の森書記次長が「安倍が戦争しようとする中、僕たちに対する弾圧も激しくなっています。しかし、戦争を止める力は学生・労働者にある。戦争は『1%』の金持ちのためであり、私たちが国境をこえて団結すれば止められる」と国際連帯を呼びかけ、「戦争、貧困への怒りを集めて6・15国会包囲を闘います」(森全学連書記次長)と決意を表明。交流会に参加した沖大生が感想を述べ、赤嶺委員長も「学生と呼吸しながら闘っている香港の学生の闘いに学びたい」とまとめのあいさつを行いました。

その後、沖縄料理のお店で夕食を取りながら、討論や交流が盛り上がりしました。

昨年11月、京大生の公安摘発の闘いが、香港の学生との闘いに続く日本の学生の闘いとして報じられましたが、まさに今回の交流会は、「戦争か革命か」の時代の中で両者を結びつけ、相互に発展させていく時代を切り開きました。また、こうした国際連帯において、闘う労組拠点の建設と一体で、沖縄の地に学生自治会を再建したことの大きさが改めて示されたと思います。国境を越えた同志たちとの連帯をかけて、これに敵対する沖大当局を踏みしだき、6・15国会決戦—大学ストライキへと闘っていく決意です。(沖縄大・A)

戦争法案粉碎! 安倍たおせ!

《6・15国会包囲大闘争》

6月15日(月) 9時~	衆議院第二議員会館前で座り込み開始
12時~13時	霞ヶ関デモ(11時45分に日比谷公園霞門集合)
15時半~16時	文部科学省へ申し入れ行動
16時半~17時半	第二議員会館前で国会への抗議集会
18時半~	全国学生集会(参議院議員会館101号室)



東大の軍事研究許すな！ 赤門前集会打ち抜く！

6月10日東大本郷キャンパス赤門前において、この間新聞紙上で明らかになった東大の軍事研究を弾劾し、6・15国会デモへの結集を呼びかける昼休み大行動を行いました。（右写真）

この集会には全国から学生運動のリーダーが結集。大行動のはじめに全学連書記次長の森幸一郎君がマイクをとり、東大が米海軍から資金提供を受け無人ボートの技術を競う国際大会に参加していた事実を弾劾。さらに「大学とは何か」と問いかけ、東大で軍事研究を許さなかった背景として、戦争への怒りの中から生まれた学生自治の歴史を明らかにしました。

つづいて京都大学全学自治会同学会委員長作部羊平君が発言。「貧困と戦争を強制する安倍政権を打倒しよう」と訴え、その実践としてこの間の京大自治会選挙の地平を明らかにし、この闘いに続こうと訴えました。さらに沖縄大学自治会委員長赤嶺知晃委員長が登場。この間の辺野古における新基地建設反対闘争の地平や沖縄県民大会に見られるゼネスト情勢の到来とともに、「ストライキで大学を戦争反対の砦にしよう」と訴えました。

東北大学学生自治会委員長・澤田光司君の発言につづき、最後に再び森幸一郎君が登場。「戦争をやろうとしている連中に大学・学問を奪われてたまるか！」と熱烈に訴え、再度6・15への結集を訴えました。

一時間弱の行動で200枚近くのビラが受け取られ、



学生のみならず、労働者・地域住民の方も数多く署名。赤嶺君の演説を聞いていた女性は「訴えに感動した」とその場でカンパ。近くで出版社を経営する男性は学生がこの時代に決起していることに心底感動し、食事のみならず、会社の中にまで招待してくれました。

全学連はこの間、首都圏学生反戦キャラバンとして各大学や街頭で訴えを行っています。

6月10日は夕方四谷駅前で行った。1時間でビラは200枚以上、『前進』を4部販売しました。

これからも6・15当日まで法大をはじめ首都圏を席卷する闘いをやりぬきます！ とともに国会を包囲する闘争をやりぬこう！



四ツ谷駅前で行った